

「いじめ」の恐ろしさ

市川三郷町立市川南中学校三年 松嶋 心優

言葉。それは、人を幸せにする。しかし、使い方を誤ると、それは、人の心を刺す凶器と変貌してしまうのだ。

家族の誕生日、私は、手紙とプレゼントを渡す。そうして、感謝を述べる。

「お誕生日おめでとう。いつも、ありがとう。」

そうすると家族は笑顔になる。それを見ると私も幸せな気持ちになる。言葉で幸せになった。

逆に、こんなこともある。これは、私が小学生の時。私は「いじめ」を受けた。三年もの間ずっと。学校の中でも、家にいる時のラインなどの SNS でも。そこには、私の悪口が、ずらずらと。私は、すごく辛かった。たくさん泣いた。死んでしまいたいとさえ思った。わたしの心は「言葉」によって殺されそうになったのだ。

「私がどんだけ苦しめば、気が済むの？」

「私をいじめるのがそんなに楽しい？」と叫びたかった。

私は人をいじめたことなどなかった。いつも消極的だった私は、人と話すときも発言に気をつけていた。なぜ私をいじめるのか、理解できなかった。

ニュースを見ると、

「いじめを受け、少女が自殺。」などの辛い見出しのものを見る。言葉の力は、すごく大きい。言葉の暴力で、一つ、また一つと命がうばわれていく。いじめられている側は、どんどん苦しくなる。いじている側は、いじめられている人の気持ちが分からない。ずっと……。いじめの辛さを知るまで、ずっと分からないのだ。自分がいじているという自覚も持っていないのだ。

でも、私は、たくさんの言葉に救われた。スクールカウンセラーの言葉。先生の言葉。私を支えてくれた両親の言葉。私を照らしてくれた、あるアイドルの言葉。言葉は、人を救うことも出来る。

いじめは立派な人権侵害だ。いじめによって、その人の人生を暗くしているのだから。

ある日、インターネットを見ていたら、あるページを見つけた。そこには、いじめを受けている人の書きこみがたくさんあった。日本の中には、こんなにたくさんいじめは起こっているのか。と私は驚いた。

このことから、私は、いじめについて調べることにした。すると、日本やアメリカは、いじめが日常茶飯事になっていて、イギリスでは、『いじめを許さない学校づくり』というものが進んでいるということだ。私はイギリスに移住したいと思うほどだった。日本もこのように『いじめを許さない学校づくり』をぜひ進めてもらいたいと思った。

私は SNS で、次々といじめを受けている人のコメントが上がっているのを見て、もうこのような人々が増えてはいけないと思った。SNS へのいじめの書きこみが、一刻も早く無くなることを願っている。

これから出会う人にも、いじめの被害者になる人がいるかもしれない。私はそんな人と出会ったら、いじめられている人の気持ちを理解し、手を差し伸べてあげたい。

そして手を差し伸べた後に、いじめている側の人にいじめがなぜいけないかを教えてあげたい。

人権と一言でいっても、例えば、高齢者、障害者、いじめ、外国人差別、人種差別などのいろいろな問題がある。これらの問題を解決するには、たくさんの方の協力と努力が必要だ。そもそも誰にも、人を中傷したり、他人の個性を非難する権利はないのだから。

今度、私をいじめるような人がいたら、私はこう言いたい。

人をいじめることは楽しいですか。ストレス発散になるのですか。私のどこが気に入らないのですか。どんな権利があって私をいじめているのですか。いじめを楽しんでいる、あなた達の心は、汚れていませんか。と。